

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
観光ビジネス実務総論 Introduction to Tourism Business		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	観光ビジネス実務士必修	全学生、観光フィールドの学生対象
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
観光ビジネス実務演習、観光学概論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
観光学演習				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
伊藤 優子	授業中に指示 します	水曜日、木曜日		授業中に指示します
授業の概要				
産業としての裾野の広さのためか、近年、地域まちおこしの柱として可能関連産業が注目を浴びている。日本は観光立国宣言をして以降、訪日外国人旅行のみならず、日本人が行う国内観光旅行、海外観光旅行も対象に含めて、観光による地域おこしの基礎的知識を再確認し、日本の観光産業の専門的知識を習得する。				
授業の目標				
①観光産業全般についての仕組みと仕事の役割および連携を理解することができるようにする。②観光産業界で役立つ専門的な知識を習得することができるようにする。③観光ビジネスにおいて実務能力を身につけ、実践的に社会に活かすことができるようにする。④ニューツーリズムとは何かを知り、新しいツーリズムの可能性を探索することができるようにする。				
授業の方法				
講義形式・事例研究を取り入れて現在の問題を解決する能力の習得を図る。				
学習の成果（学習成果）				
①観光の基礎的知識を再確認することができる。②観光立国宣言をした日本の観光政策を自ら学び、課題を見つけ、これからの観光政策を考える能力を身につけることができる。③国内旅行および海外旅行の新しい観光を構築できる。④訪日外国人旅行に関して日本が目指すべき方向性を考え、社会に活かす方法を創出することができる。⑤世界遺産の知識を深め、地域に与えるメリット、デメリット、それぞれの影響を自ら学び、地域を活性化させる方策を考え出すことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	観光の意味と現代における観光の意義			
第2回目	グループワーク 人気の観光地			
第3回目	旅行商品研究			
第4回目	旅行業の仕事と仕組み			
第5回目	旅行業界の現状			
第6回目	国内旅行の現状			

第7回目	海外旅行の現状		
第8回目	訪日外国人旅行の現状		
第9回目	航空業界の現状		
第10回目	航空業界の変遷		
第11回目	FSAとLSSの比較		
第12回目	航空業界の取り組み		
第13回目	宿泊業の現状		
第14回目	ホテルと旅館の比較		
第15回目	観光ビジネス実務のまとめ		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		30%	授業に集中し、ノートをとっている。不明なことがあれば積極的に質問する。指名されたら自分の意見を述べるなどが評価の対象となる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たす上位トップグループ。
レポート			
調査報告書			
小テスト			
試験		50%	観光の現状についての理解度を図る(実施日時は、授業中に指示します)。旅行業界、交通運輸業界、宿泊業界、世界遺産など授業内容全般について幅広い知識が求められる。S評価の基準：S=90-100
発表内容（態度含む）			
その他		20%	グループワークを実施する。積極的にディスカッションに参加し、グループで意見をまとめ現状を理解する(実施日時は、授業中に指示します)。S評価の基準：上記参加態度を全て満たす上位トップグループ。
教科書と参考図書			
観光概論（JTB総合研究所）			
履修上の留意点・ルール			
遅刻厳禁。私語はつつしむこと。授業途中で無断で退出厳禁。携帯電話使用禁止。飲食厳禁			